

新規事業採択時評価結果（平成23年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業の概要

事業名	一般国道158号 奈川渡改良	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局
起終点	自：長野県松本市奈川 至：長野県松本市安曇	延長	2.2km		
事業概要	<p>一般国道158号は、福井県福井市を起点として、長野県松本市に至る延長約249.4kmの幹線道路であり、北陸地方・中部地方と関東・甲信越地方を結ぶ唯一の路線である。</p> <p>奈川渡改良は、松本市奈川（現国道158号の現新入山トンネル奈川渡ダム側坑口付近）を起点とし、松本市安曇（小白沢）の現国道158号に接続する延長2.2kmの路線である。</p>				
事業の目的、必要性	<p>当該区間の整備により、線形不良や幅員・建築限界不足が解消され、唯一の幹線道路である国道158号の信頼性・利便性・定時性の向上する他、防災危険箇所を回避することで、災害による危険の減少等が図られる。</p>				
全体事業費	約110億円	計画交通量	8,800台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見	<p>【長野県知事】</p> <ul style="list-style-type: none"> 予算化に同意 早期の事業完成に向けて特段の御配慮をお願いしたい
----------------	---

学識経験者等の第三者委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業化については妥当である 事業目的に応じた適切な手法により評価を行うことが重要 3便益による評価だけでなく、多様な評価手法についても今後工夫する必要がある
------------------	--

事業採択の前提条件	<ul style="list-style-type: none"> 費用対便益：便益が費用を上回っている。 手続きの完了：都市計画決定の対象外。
-----------	---

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.5	総費用 79億円 （事業費：71億円 維持管理費：8.2億円）	総便益 115億円 （走行時間短縮便益：82億円 走行経費減少便益：22億円 交通事故減少便益：10億円）	基準年 平成22年
	感度分析の結果		交通量変動 B/C=1.3 (交通量 -10%)	B/C=1.5 (交通量 +10%)	
事業の影響	評価項目	評価	根拠		
	自動車や歩行者への影響				
	歩行空間	—			
社会全体への影響	渋滞対策	○	<p>・大型車のすれ違い待ちによる滞留の解消が見込まれる。（建築限界不足のトンネル5箇所）</p> <p>【休日混雑度】 1.23~1.39（現況・H17センサス）</p> <p>並行区間等の渋滞損失時間：約23.4千人時間/年</p> <p>並行区間等渋滞損失削減率：10割削減</p>		
	事故対策	○	<p>・事故発生割合の高い区間の事故の減少が見込まれる。（新入山トンネル坑口交差点）</p> <p>【死傷事故率】 294.0件/億台キロ（現況・H17~H20） ※当該区間における最大死傷事故率</p> <p>長野県平均：63.6件/億台キロ（約4.6倍）</p> <p>全国平均：102.6件/億台キロ（約2.9倍）</p>		
	住民生活	◎	<p>・救急医療施設への速達性向上：第二次救急医療施設へのアクセスが向上し、緊急車両による搬送等における安全性・速達性の向上が見込まれる。（旧奈川村・旧安曇村には第二次救急医療施設がない。）</p> <p>第二次救急医療施設（波田総合病院）へのアクセス向上が見込まれる人口：約2,200人（旧奈川村・旧安曇村の約7割）</p> <p>・公共交通機関の信頼性等の向上：バスの運行が容易となり、地域唯一の公共交通機関であるバスの信頼性・利便性・定時性の向上が見込まれる。</p>		
	地域経済	○	<p>・地域連携の支援：市町村合併（H17.4.1）した、松本市と旧奈川村・旧安曇村の地域間を連携する道路である。</p> <p>旧奈川村⇄松本市役所：約58分→約57分 約1分短縮</p> <p>旧安曇村（大野川地区）⇄松本市役所：約65分→約64分 約1分短縮</p> <p>・観光地への速達性向上：上高地や乗鞍高原などの観光地へのアクセス性が向上し、観光客の増加が見込まれる。</p> <p>松本駅～上高地の所要時間：約80分→約78分 約2分短縮（休日）</p>		
	災害	◎	<p>・緊急輸送道路の確保：防災危険箇所の回避により、災害による危険性が減少し、通行止め発生時における迂回距離が大幅に減少。</p> <p>岐阜県高山市～松本市の所要時間：約204分→約121分 約83分短縮</p>		
環境	○	<p>・沿道環境の改善：走行速度の向上により、CO2、NOx、SPMの排出量が削減され、当該地域の「上高地」に代表される豊かな自然・森林資源、生活環境の保全に寄与する。</p>			
地域社会	◎	<p>・交流促進・連携強化：岐阜県高山市と長野県松本市など、北陸地方・中部地方と関東・甲信越地方を結ぶ唯一の路線であり、交流促進・連携強化が見込まれる。</p>			
事業実施環境	◎	<p>・長野県知事、松本市長、中部縦貫自動車道（松本～中ノ湯間道路）建設・国道158号整備促進期成同盟会等により積極的な要望活動が行われており、整備に対する地域要望が非常に高い。</p>			

対応方針

<p>費用便益比が1.5と便益が費用を上回っているとともに、事業採択の前提条件が確認できる。</p> <p>また、住民生活や災害対応、地域経済など、当該事業の整備の必要性・効果は高いと判断できる。</p> <p>以上より、本事業の新規事業化については妥当である。</p>

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。